

公立高等学校配置計画案

(令和9年度(2027年度)～11年度(2029年度))

- ・ 令和9年度(2027年度)高校配置計画変更案
- ・ 令和10年度(2028年度)高校配置計画変更案
- ・ 令和11年度(2029年度)高校配置計画案

令和8年(2026年)6月
北海道教育委員会

目

次

I	公立高等学校配置計画案（令和９年度（2027年度）～11年度（2029年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画案（令和９年度（2027年度）～11年度（2029年度））の概要	2
5	地域連携校等の再編整備の留保	2
6	配置計画の変更	2
II	公立高等学校配置計画案（令和９年度（2027年度）～11年度（2029年度））の内容	
1	中学校卒業者数	3
2	欠員の状況	3
3	定員及び中学校卒業者数に対する割合	3
4	配置計画案（令和９年度（2027年度）～11年度（2029年度））の学校別内訳	4
5	中学校卒業者数の推計及び推移	7
III	公立高等学校配置計画案（令和９年度（2027年度）～11年度（2029年度））学区別個表	
	空知南学区	9
	空知北学区	10
	石狩学区	11
	後志学区	13
	胆振西学区	14
	胆振東学区	15
	日高学区	16
	渡島学区	17
	檜山学区	18
	上川南学区	19
	上川北学区	20
	留萌学区	21
	宗谷学区	22
	オホーツク中学区	23
	オホーツク東学区	24
	オホーツク西学区	25
	十勝学区	26
	釧路学区	27
	根室学区	28

I 公立高等学校配置計画案（令和9年度（2027年度）～11年度（2029年度）） 策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和9年度（2027年度）及び令和10年度（2028年度）の計画の一部を変更し、令和11年度（2029年度）の配置計画を策定するとともに、令和12年度（2030年度）から令和15年度（2033年度）までの見通しを示すものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和9年（2027年）に3万9,174人、令和10年（2028年）に3万8,118人、令和11年（2029年）に3万7,875人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、令和5年（2023年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」改定版（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、市町や圏域において複数の高校が設置されている場合、関係市町村の参画を得ながら高校の役割分担や定員調整も含めた具体的な配置の在り方を検討するなど、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行う。

なお、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

また、いわゆる高校無償化やそれに伴う高校教育改革等の国の施策による生徒の進路動向への影響を勘案する。

(1) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

(2) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(3) アンビシャススクールの導入

多様な学校選択幅のある学区において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことに重点を置くアンビシャススクールの導入を進める。

(4) 普通科新学科の設置

学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科及び地域や社会の将来を担う人材を育成し、現在・将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科の設置を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 地域連携校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

4 配置計画案（令和9年度（2027年度）～11年度（2029年度））の概要

決定済みの令和9年度（2027年度）及び令和10年度（2028年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和11年度（2029年度）の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 令和9年度（2027年度）高校配置計画の変更

全日制課程

① 再編統合・普通科新学科の設置

市立札幌藻岩高校及び市立札幌啓北商業高校の再編統合により設置する市立札幌彩輝高校について、検討中としていた学科の名称を、普通科新学科は未来デザイン科、商業科はビジネスインノベーション科とする。

② その他

令和8年度（2026年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った美唄尚栄高校など30校の令和9年度（2027年度）の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

(3) 令和10年度（2028年度）高校配置計画の変更

全日制課程

① 学級減・学科転換

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、在籍状況などを勘案し、旭川工業高校で1学級の減を行う。

② 再編統合

釧路商業高校及び釧路明輝高校の再編統合に関し、新設校の使用校舎について、両校の校舎の状況や新設校での教育活動などを勘案し、釧路明輝高校校舎を使用する。

(4) 令和11年度（2029年度）高校配置計画

いわゆる高校無償化に伴う生徒の進路動向や、本年2月に国が示した「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」に基づく施策の動向を見極める必要があることなど、高校教育を取り巻く大きな環境変化を踏まえると、今後の高校配置をより慎重に検討する必要があることから、令和11年度（2029年度）においては、定員の調整や学校の再編整備等は実施しないこととする。

5 地域連携校等の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携校及び全日制課程で農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続で20人未満となった場合であっても、道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備を留保することとしており、こうした状況となっている上川高校、天塩高校、羅臼高校について、再編整備を留保する。

6 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立高校や私立高校の設置・廃止により、生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

(1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合

(2) 学級減と併せた学科転換、地域連携校の導入等を実施する場合

(3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

Ⅱ 公立高等学校配置計画案（令和9年度（2027年度）～11年度（2029年度）） の内容

1 中学校卒業生数

令和8年(2026年)(実績)	39,940人	(対前年比 30人減少)
令和9年(2027年)(推計)	39,174人	(対前年比 766人減少)
令和10年(2028年)(推計)	38,118人	(対前年比 1,056人減少)
令和11年(2029年)(推計)	37,875人	(対前年比 243人減少)

2 欠員の状況

(令和8年(2026年)5月1日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合 計
4,038人 (+86人)	1,261人 (+112人)	654人 (-933人)	5,953人 (-735人)

※（ ）は対前年増減。中等教育学校を除く。

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計
		全日制	定時制	中等教育学校			
令和8年度	定 員 (人)	27,876	2,160	240	720	11,051	42,047
	割 合 (%)	69.8	5.4	0.6	1.8	27.7	105.3
公立高等学校配置計画案	令和9年度	学 級 増 (人)	0	0	0	0	0
		学 級 減 (人)	-80	0	0	0	-80
		新 設 (人)	320	0	0	0	320
		募集停止 (人)	-520	0	0	0	-520
		差引増減 (人)	-280	0	0	0	-280
		定 員 (人)	27,596	2,160	240	720	41,767
		割 合 (%)	70.4	5.5	0.6	1.8	106.6
	令和10年度	学 級 増 (人)	0	0	0	0	0
		学 級 減 (人)	-240	0	0	0	-240
		新 設 (人)	200	0	0	0	200
		募集停止 (人)	-320	0	0	0	-320
		差引増減 (人)	-360	0	0	0	-360
		定 員 (人)	27,236	2,160	240	720	41,407
		割 合 (%)	71.5	5.7	0.6	1.9	108.6
	令和11年度	学 級 増 (人)	0	0	0	0	0
		学 級 減 (人)	0	0	0	0	0
		新 設 (人)	0	0	0	0	0
		募集停止 (人)	0	0	0	0	0
		差引増減 (人)	0	0	0	0	0
		定 員 (人)	27,236	2,160	240	720	41,407
		割 合 (%)	71.9	5.7	0.6	1.9	109.3

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和9年度（2027年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）の1学級の定員は30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）の1学級の定員は35人としている。

※4 大空高校（大空町立）の1学級の定員は36人としている。

※5 ニセコ国際高校（ニセコ町立）の1学級の定員は35人とする。

4 配置計画案（令和9年度（2027年度）～11年度（2029年度））の学校別内訳

(1) 令和8年度（2026年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	R 8（2026） 募集学級数	R 8（2026） 開設学級数	R 9（2027） 募集学級数
空 知 南	道	美 唄 尚 栄	全	総 合	2	1	計画決定時 に 公 表
	道	長 沼	全	普 通	2	1	
	道	栗 山	全	普 通	2	1	
石 狩	道	札 幌 丘 珠	全	普 通	7	6	
	道	札 幌 西 陵	全	普 通	6	5	
	道	札 幌 真 栄	全	普 通	5	4	
	道	札 幌 英 藍	全	普 通	7	6	
	道	札 幌 白 陵	全	普 通	2	1	
	道	野 幌	全	普 通	3	2	
	道	千 歳 北 陽	全	総 合	4	3	
	道	北 広 島 西	全	普 通	4	2	
	道	恵 庭 南	全	普 通	5	4	
	道	恵 庭 北	全	普 通	6	5	
後 志	道	俱 知 安	全	普 通	4	3	
胆 振 西	道	登 別 青 嶺	全	普 通	3	2	
	道	伊 達 開 来	全	普 通	4	3	
胆 振 東	道	白 老 東	全	普 通	2	1	
日 高	道	静 内	全	普 通	5	4	
渡 島	道	七 飯	全	普 通	3	2	
檜 山	道	江 差	全	普 通	2	1	
上 川 北	道	士 別 翔 雲	全	普 通	3	2	
	道	名 寄	全	普 通	4	3	
留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	3	
オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	2	1	
オホーツク西	道	遠 軽	全	普 通	5	4	
	道	紋 別	全	普 通	3	2	
十 勝	道	音 更	全	普 通	3	2	
	道	清 水	全	総 合	3	2	
根 室	道	別 海	全	普 通	3	2	
	道	中 標 津	全	普 通	4	3	
計		全 3 0 校					

(2) 学級増減

① 学級増

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 9 (2027)	—								
R 10 (2028)	—								
R 11 (2029)	—								
計									

② 学級減（ 網掛け = 決定済み配置計画の変更案）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 9 (2027)	才ホーツク中 釧 路	道	北 見 商 業	全	商業(大学科)	3	2	－ 1	3 学級→2 学級
		道	釧 路 江 南	全	普 通	5	4	－ 1	5 学級→4 学級
		(小計)	2 校					－ 2	
R 10 (2028)	後 志 胆 振 東 渡 島 上 川 南 十 勝	道	小 樽 桜 陽	全	普 通	5	4	－ 1	5 学級→4 学級
		道	苫 小 牧 西	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
		道	函 館 西	全	普 通	6	5	－ 1	6 学級→5 学級
		道	旭 川 工 業	全	工業化学科	1	0	－ 1	6 学級→5 学級
		道	帯 広 緑 陽	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
		道	芽 室	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
		(小計)	6 校					－ 6	
R 11 (2029)	－								
計			8 校					－ 8 (－ 3 2 0)	

・北見商業の小学科については、「(5) 学科転換」を参照。

(3) 再編整備

① 再編統合（ 網掛け = 決定済み配置計画の変更案）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 9 (2027)	石 狩	市	市立札幌藻岩	全	普 通	6	0	－ 6	6 学級→0 学級
		市	市立札幌啓北商業	全	未 来 商 学	6	0	－ 6	6 学級→0 学級
		市	市立札幌彩輝	全	未来デザイン ビジネス	0	5	＋ 8	8 学級 市立札幌藻岩高校敷地に校舎を新築
R 10 (2028)	釧 路	道	釧 路 商 業	全	流通マシ*メト	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
					会計マシ*メト	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
					情報マシ*メト	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
		道	釧 路 明 輝	全	総 合	4	0	－ 4	4 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	総 合	0	5	＋ 5	5 学級 釧路明輝高校校舎を使用
R 11 (2029)	－								
計			再編に伴う募集停止 4 校、新設 2 校					－ 6 (－ 2 4 0)	

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 9 (2027)	渡 島	道	南 茅 部	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
R 10 (2028)	上 川 南	道	美 瑛	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
R 11 (2029)	－								
計			2 校					－ 2 (－ 8 0)	

(4) 新設

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 9 (2027)									—
R 10 (2028)									—
R 11 (2029)									—
計									

(5) 学科転換

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 9 (2027)	オホーツク中	道	北 見 商 業	全	商 業 科	1	0	－1	(再掲) 1 学年総学級数 3 学級→2 学級
					情報処理科	1	0	－1	
					情報会計科	0	1	＋1	
R 10 (2028)									—
R 11 (2029)									—

(6) 単位制の導入 (網掛け = 決定済み配置計画の変更案)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 9 (2027)	石 狩 市		市立札幌彩輝	全	未来デザイン	5	(再掲) 市立札幌藻岩・市立札幌啓北商業の再編
					ビジネスバリエーション	3	
R 10 (2028)							—
R 11 (2029)							—

(7) 地域連携校の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	協 力 校	摘 要
R 9 (2027)							—
R 10 (2028)							—
R 11 (2029)							—

5 中学校卒業生数の推計及び推移

中 学 校 卒 業 生 数 推 計 表 （ 令和8年(2026年)推計 ）

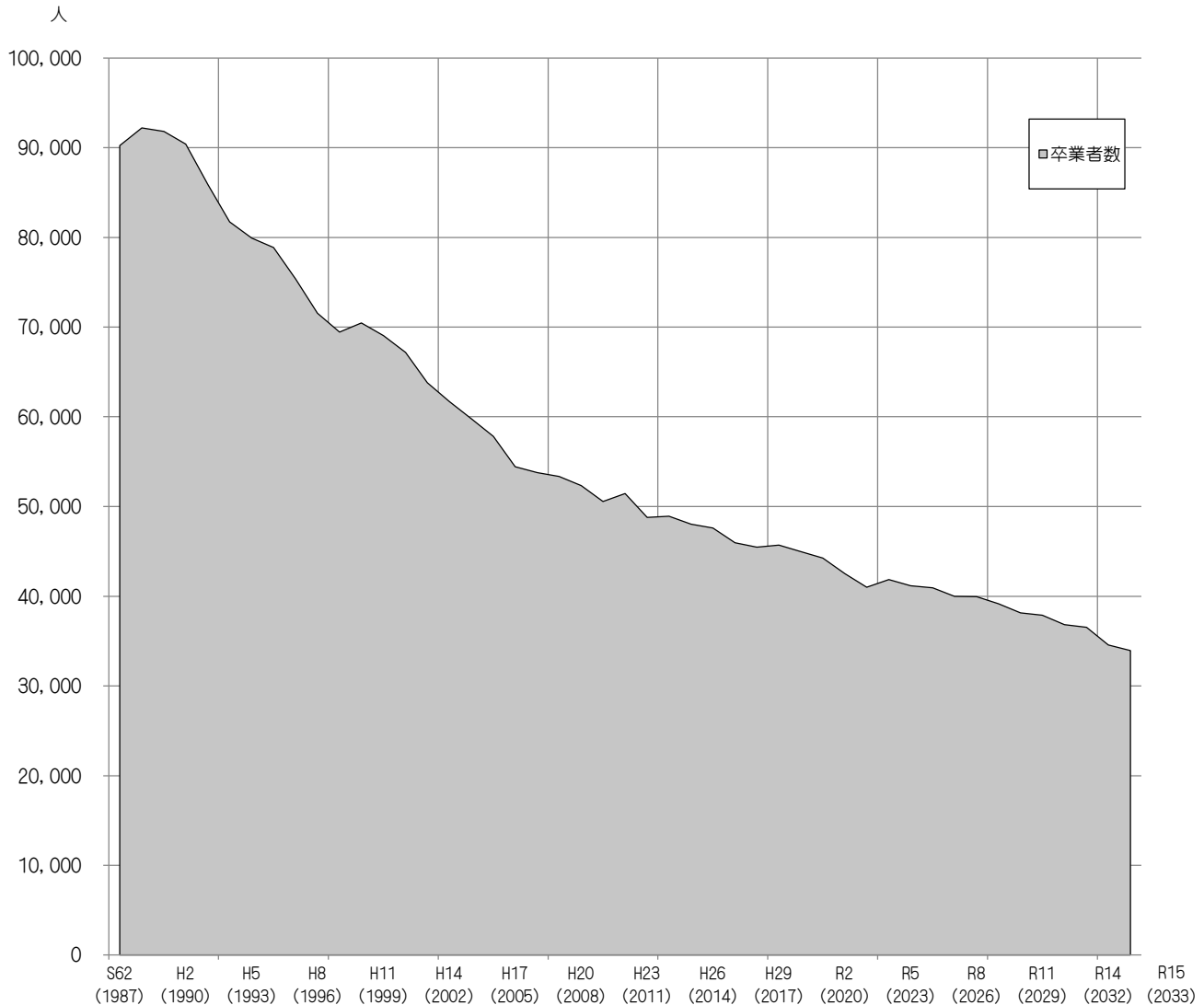
	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)	令和11年 (2029年)	令和12年 (2030年)	令和13年 (2031年)	令和14年 (2032年)	令和15年 (2033年)
空 知 南	1,027	1,005 ▲ 22	929 ▲ 76	959 +30	911 ▲ 48	819 ▲ 92	853 +34	818 ▲ 35
空 知 北	817	760 ▲ 57	714 ▲ 46	733 +19	710 ▲ 23	688 ▲ 22	637 ▲ 51	618 ▲ 19
石 狩	19,318	18,893 ▲ 425	18,672 ▲ 221	18,846 +174	18,778 ▲ 68	18,791 +13	17,902 ▲ 889	17,767 ▲ 135
後 志	1,336	1,309 ▲ 27	1,236 ▲ 73	1,262 +26	1,152 ▲ 110	1,142 ▲ 10	1,028 ▲ 114	1,050 +22
胆 振 西	1,190	1,210 +20	1,211 +1	1,068 ▲ 143	1,055 ▲ 13	1,109 +54	1,005 ▲ 104	971 ▲ 34
胆 振 東	1,666	1,631 ▲ 35	1,610 ▲ 21	1,608 ▲ 2	1,522 ▲ 86	1,504 ▲ 18	1,432 ▲ 72	1,372 ▲ 60
日 高	478	444 ▲ 34	458 +14	397 ▲ 61	431 +34	391 ▲ 40	365 ▲ 26	331 ▲ 34
渡 島	2,695	2,666 ▲ 29	2,496 ▲ 170	2,475 ▲ 21	2,345 ▲ 130	2,350 +5	2,091 ▲ 259	2,053 ▲ 38
檜 山	212	202 ▲ 10	174 ▲ 28	179 +5	147 ▲ 32	137 ▲ 10	141 +4	137 ▲ 4
上 川 南	3,202	3,187 ▲ 15	3,111 ▲ 76	3,093 ▲ 18	2,955 ▲ 138	2,914 ▲ 41	2,757 ▲ 157	2,755 ▲ 2
上 川 北	399	392 ▲ 7	374 ▲ 18	345 ▲ 29	322 ▲ 23	338 +16	296 ▲ 42	314 +18
留 萌	283	266 ▲ 17	261 ▲ 5	238 ▲ 23	227 ▲ 11	191 ▲ 36	202 +11	186 ▲ 16
宗 谷	407	395 ▲ 12	396 +1	384 ▲ 12	364 ▲ 20	335 ▲ 29	319 ▲ 16	296 ▲ 23
オホーツク中	1,177	1,065 ▲ 112	1,120 +55	1,039 ▲ 81	929 ▲ 110	956 +27	926 ▲ 30	863 ▲ 63
オホーツク東	466	476 +10	433 ▲ 43	431 ▲ 2	378 ▲ 53	381 +3	351 ▲ 30	334 ▲ 17
オホーツク西	415	410 ▲ 5	355 ▲ 55	376 +21	364 ▲ 12	313 ▲ 51	291 ▲ 22	327 +36
十 勝	2,704	2,743 +39	2,630 ▲ 113	2,528 ▲ 102	2,422 ▲ 106	2,360 ▲ 62	2,292 ▲ 68	2,221 ▲ 71
釧 路	1,612	1,533 ▲ 79	1,400 ▲ 133	1,391 ▲ 9	1,348 ▲ 43	1,297 ▲ 51	1,227 ▲ 70	1,114 ▲ 113
根 室	536	587 +51	538 ▲ 49	523 ▲ 15	456 ▲ 67	502 +46	443 ▲ 59	408 ▲ 35
合 計	39,940	39,174 ▲ 766	38,118 ▲ 1,056	37,875 ▲ 243	36,816 ▲ 1,059	36,518 ▲ 298	34,558 ▲ 1,960	33,935 ▲ 623

※中学校卒業生数は、令和8年（2026年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和8年（2026年）は実数、令和9年（2027年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和15年（2033年））

（注） 1 昭和62年（1987年）～令和8年（2026年）は実卒業者数である。
2 令和9年（2027年）～令和15年（2033年）は学校基本調査（令和8年（2026年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業者数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増 減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業者数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増 減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業者数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	40,983	41,845	41,178	40,951	39,970
増 減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,513	+862	-667	-227	-981

年	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)
卒業者数	39,940	39,174	38,118	37,875	36,816	36,518	34,558	33,935
増 減	-30	-766	-1,056	-243	-1,059	-298	-1,960	-623

Ⅲ 公立高等学校配置計画案（令和９年度（2027年度）～11年度（2029年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画案																			
区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		1, 027		1, 005		929		959		911		819		853		818		▲ 209	▲ 141
対前年増減				▲ 22		▲ 76		+ 30		▲ 48		▲ 92		+ 34		▲ 35			
岩見沢市中卒者数		(595)		(582)		(525)		(555)		(508)		(483)		(469)		(459)		▲ 136	▲ 96
対前年増減				▲ 13		▲ 57		+ 30		▲ 47		▲ 25		▲ 14		▲ 10			
美唄市中卒者数		(107)		(89)		(94)		(93)		(95)		(70)		(90)		(69)		▲ 38	▲ 24
対前年増減				▲ 18		+ 5		▲ 1		+ 2		▲ 25		+ 20		▲ 21			
三笠市中卒者数		(44)		(33)		(46)		(36)		(40)		(36)		(43)		(31)		▲ 13	▲ 5
対前年増減				▲ 11		+ 13		▲ 10		+ 4		▲ 4		+ 7		▲ 12			
夕張市中卒者数		(25)		(31)		(23)		(20)		(17)		(15)		(18)		(14)		▲ 11	▲ 6
対前年増減				+ 6		▲ 8		▲ 3		▲ 3		▲ 2		+ 3		▲ 4			
学校名		令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員		令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11年度 (2029年度)		令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し					摘要	
		普通	職業	計															
単 普 新	岩見沢東	6		6	38							○4年間で3～4学級に相当する中卒者の減					月形、夕張の協力校 文理探究科(普通科新学科)		
	岩見沢農業		農 7	7	79							○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置 状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い 岩見沢市を中心に、周辺市町を含めた公 立高校全体の配置の在り方の検討が必要							
	*岩見沢緑陵	4	商 2	6	3							○欠員が40人以上生じている学校につい て、定員を含む学科構成の在り方の検討 が必要							
総	美唄尚栄	2→1		1	4	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕						○2年連続で20人未満となったため、集中 取組期間（地域における高校の教育機能の 維持向上に向けた具体的取組とその効果を 勘案した一定の期間）を設けて再編整備を 留保されている地域連携校については、取 組内容やその効果などに大きな変動がある 場合、必要に応じて集中取組期間の見直し を検討することとしており、一層魅力ある 高校づくりを推進し入学者を確保すること が必要					R 8 (2026)入選第2 次募 集後学級減		
	美唄聖華		看 2	2	36														
	*三 笠		家 1	1	0														
地	月 形	1		1	22														
地	夕 張	1		1	21														
	長 沼	2→1		1	6	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕													
	栗 山	2→1		1	10	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕													
10校		18 →15	12	27	219														

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「普新」は普通科新学科設置校、「ア」はアンビシャススクール、「中高」は連携型中高一貫教育校、「※中高」は連携型中高一貫教育校に準じる学校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携校。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 () は定時制課程で計欄に含まない。(以下同)

注5 令和8年度(2026年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

なお、令和9年度(2027年度)の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。(以下同)

注6 「令和12～15年度(2030～2033年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和15年(2033年)と令和11年(2029年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	R 15 (2033)	令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減	
学区内中卒者数		817	760	714	733	710	688	637	618	▲ 199	▲ 115	
対前年増減			▲ 57	▲ 46	+ 19	▲ 23	▲ 22	▲ 51	▲ 19			
滝川市中卒者数		(283)	(290)	(231)	(246)	(213)	(216)	(212)	(211)	▲ 72	▲ 35	
対前年増減			+ 7	▲ 59	+ 15	▲ 33	+ 3	▲ 4	▲ 1			
砂川市中卒者数		(106)	(89)	(108)	(87)	(104)	(92)	(81)	(93)	▲ 13	+ 6	
対前年増減			▲ 17	+ 19	▲ 21	+ 17	▲ 12	▲ 11	+ 12			
歌志内市中卒者数		(4)	(10)	(7)	(7)	(4)	(6)	(6)	(5)	+ 1	▲ 2	
対前年増減			+ 6	▲ 3	± 0	▲ 3	+ 2	± 0	▲ 1			
芦別市中卒者数		(63)	(54)	(55)	(53)	(54)	(39)	(46)	(36)	▲ 27	▲ 17	
対前年増減			▲ 9	+ 1	▲ 2	+ 1	▲ 15	+ 7	▲ 10			
赤平市中卒者数		(42)	(50)	(35)	(43)	(38)	(33)	(42)	(21)	▲ 21	▲ 22	
対前年増減			+ 8	▲ 15	+ 8	▲ 5	▲ 5	+ 9	▲ 21			
深川市中卒者数		(122)	(96)	(117)	(115)	(114)	(113)	(99)	(92)	▲ 30	▲ 23	
対前年増減			▲ 26	+ 21	▲ 2	▲ 1	▲ 1	▲ 14	▲ 7			
学校名	令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し			摘要	
	普通	職業	計									
単 滝 川	5		5	11				○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置 状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い 滝川市を中心に、周辺市町を含めた公立 高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、定員を含む学科構成の在り方の検討 が必要 ○地域連携校について、5月1日現在の在籍 者数が2年連続して20人未満となった場 合は、所在市町村をはじめとした地域と連 携して、高校の特色化・魅力化、入学者確 保に取り組む集中取組期間を設けて再編整 備の留保の検討が必要	芦別の協力校			
滝川工業		工 2	2	57								
*滝川西	3	商 3	6	23								
単 砂 川	2		2	10								
新十津川農業		農 1	1	0								
地 芦 別	1		1	23								
深川西	2		2	28								
深川東		農 1	1	17								
8校	13	7	20	169								

石狩学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	R 15 (2033)	令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		19,318	18,893	18,672	18,846	18,778	18,791	17,902	17,767	▲ 1,551	▲ 1,079
対前年増減			▲ 425	▲ 221	+ 174	▲ 68	+ 13	▲ 889	▲ 135		
札幌市中卒者数		(15,486)	(15,058)	(14,956)	(15,074)	(15,029)	(15,066)	(14,354)	(14,217)	▲ 1,269	▲ 857
対前年増減			▲ 428	▲ 102	+ 118	▲ 45	+ 37	▲ 712	▲ 137		
江別市中卒者数		(1,190)	(1,177)	(1,147)	(1,194)	(1,167)	(1,146)	(1,158)	(1,152)	▲ 38	▲ 42
対前年増減			▲ 13	▲ 30	+ 47	▲ 27	▲ 21	+ 12	▲ 6		
千歳市中卒者数		(852)	(883)	(847)	(868)	(839)	(843)	(788)	(769)	▲ 83	▲ 99
対前年増減			+ 31	▲ 36	+ 21	▲ 29	+ 4	▲ 55	▲ 19		
恵庭市中卒者数		(634)	(616)	(601)	(608)	(606)	(602)	(541)	(550)	▲ 84	▲ 58
対前年増減			▲ 18	▲ 15	+ 7	▲ 2	▲ 4	▲ 61	+ 9		
北広島市中卒者数		(550)	(561)	(523)	(529)	(569)	(507)	(509)	(496)	▲ 54	▲ 33
対前年増減			+ 11	▲ 38	+ 6	+ 40	▲ 62	+ 2	▲ 13		
石狩市中卒者数		(507)	(484)	(496)	(470)	(464)	(514)	(446)	(476)	▲ 31	+ 6
対前年増減			▲ 23	+ 12	▲ 26	▲ 6	+ 50	▲ 68	+ 30		
学校名	令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
札 幌 東	8		8	0				○4年間で公私比率動向後17～18学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、札幌市の整備計画も踏まえた上で、札幌市内の再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要 ○複数の学科を設置している定時制課程について、いずれかの学科で5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となりその後も生徒数の増が見込まれない場合は、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要（札幌工業、札幌琴似工業）			
札 幌 西	8		8	0							
札 幌 南	8		8	-2							
札 幌 北	8		8	0							
札幌月寒	8		8	-2							
札幌啓成	8		8	-1							
札幌北陵	8		8	0							
単 札幌手稲	8		8	6							
札幌丘珠	7→6		6	26	〔募集学級数は計画決定時に公表〕					R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減	
札幌西陵	6→5		5	26	〔募集学級数は計画決定時に公表〕					R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減	
単 札幌白石	7		7	0							
単 札幌東陵	7		7	1							
札幌南陵	2		2	28							
札幌東豊	2		2	17							
総 札幌厚別	7		7	10							
札幌真栄	5→4		4	12	〔募集学級数は計画決定時に公表〕					R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減	
札幌あすかぜ	2		2	27							
札幌稲雲	7		7	29							
札幌平岡	6		6	0							
単 札幌英藍	7→6		6	10	〔募集学級数は計画決定時に公表〕					R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減	

学校名	令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
札幌白陵	2→1		1	3	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕				R 8 (2026)入選第2次募 集後学級減
札幌国際情報	4	工 1 商 3	8	0					
江 別	5	商 1 家 1	7	0					
ア 野 幌	3→2		2	10	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕				R 8 (2026)入選第2次募 集後学級減
単 大 麻	7		7	33					
千 歳	6	商 2	8	3					
総 ア 千歳北陽	4→3		3	5	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕				R 8 (2026)入選第2次募 集後学級減
単 北 広 島	7		7	0					
北広島西	4→2		2	-1	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕				R 8 (2026)入選第2次募 集後学級減
石 狩 南	7		7	9					
当 別	1	農 1 家 1	3	60					
恵 庭 南	7→6		6	43	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕				R 8 (2026)入選第2次募 集後学級減
恵 庭 北	6→5		5	14	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕				R 8 (2026)入選第2次募 集後学級減
札幌工業		工 8	8	31					
札幌夢似工業		工 8	8	52					
札幌東商業		商 8	8	0					
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *市立札幌旭丘	8		8	0					
単 *市立札幌藻岩	6		6	0	普▲6				
*市立札幌啓北商業		商 6	6	67	商▲6				
*市立札幌彩輝					普+5 商+3 単位制導入 普通科新学科設置				市立札幌藻岩高校敷地に 校舎を新築
*市立札幌平岸	8		8	0					
単 *市立札幌清田	6		6	17					
中 等 *市立札幌開成	4		4	5					
*市立札幌新川	8		8	0					
44校	240 →229	40	269	538	普▲6 商▲6 普+5 商+3				

後志学区高校配置計画案

区 分	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	R 15 (2033)	令和9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数	1,336	1,309	1,236	1,262	1,152	1,142	1,028	1,050	▲ 286	▲ 212
対前年増減		▲ 27	▲ 73	+ 26	▲ 110	▲ 10	▲ 114	+ 22		
小樽市中卒者数	(689)	(684)	(616)	(623)	(584)	(596)	(523)	(548)	▲ 141	▲ 75
対前年増減		▲ 5	▲ 68	+ 7	▲ 39	+ 12	▲ 73	+ 25		
学校名	令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度(2030～2033年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	5		5	1				○4年間で公私比率助案後3～4学級に相当する中卒者の減		
単 小樽桜陽	5		5	28		普▲1		○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い小樽市を中心に、周辺市町を含めた公立高校全体の配置の在り方の検討が必要		
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	32				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要		
小樽水産		水 4	4	23				○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要		寿都の協力校
総 余市紅志	1		1	13				○小樽市内の定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となるなど小規模化していることから、生徒の進路動向を踏まえながら今後の在り方の検討が必要		蘭越の協力校 R8(2026)入選第2次募集後学級減
単 岩 内	2	商 1	3	47						
地 寿 都	1		1	23						
単 倶 知 安	4→3		3	16	〔募集学級数は 計画決定時に公表〕					
地 蘭 越	1		1	17						
倶知安農業		農 1	1	24						
総 *二セコ国際	2		2	13						
11校	21 →20	10	30	237		普▲1				

胆振西学区高校配置計画案

区 分	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	R 15 (2033)	令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数	1, 190	1, 210	1, 211	1, 068	1, 055	1, 109	1, 005	971	▲ 219	▲ 97
対前年増減		+ 20	+ 1	▲ 143	▲ 13	+ 54	▲ 104	▲ 34		
室蘭市中卒者数	(501)	(535)	(523)	(437)	(442)	(450)	(420)	(407)	▲ 94	▲ 30
対前年増減		+ 34	▲ 12	▲ 86	+ 5	+ 8	▲ 30	▲ 13		
登別市中卒者数	(359)	(353)	(373)	(326)	(304)	(357)	(315)	(293)	▲ 66	▲ 33
対前年増減		▲ 6	+ 20	▲ 47	▲ 22	+ 53	▲ 42	▲ 22		
伊達市中卒者数	(221)	(235)	(218)	(220)	(209)	(228)	(174)	(182)	▲ 39	▲ 38
対前年増減		+ 14	▲ 17	+ 2	▲ 11	+ 19	▲ 54	+ 8		
学校名	令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し	摘要
室 蘭 栄	5		5	7					○4年間で公私比率動案後1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、室蘭市内及び周辺市町も含めた圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を動案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要	
単 室蘭清水丘	4		4	33						
総 室蘭東翔	4		4	6						
室蘭工業		工 3	3	38						
単 登別青嶺	3→2		2	22	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕					R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減
中 登別明日	2		2	24						
単 伊達開来	4→3		3	2	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕					虻田の協力校 R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減
地 虻 田		商 1	1	27						再編整備留保
*辻 警		農 1	1	18						
9校	22 →20	5	25	177						

胆振東学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減		
学区内中卒者数		1,666		1,631		1,610		1,608		1,522		1,504		1,432		1,372		▲ 294	▲ 236		
対前年増減				▲ 35		▲ 21		▲ 2		▲ 86		▲ 18		▲ 72		▲ 60					
苫小牧市中卒者数		(1,444)		(1,433)		(1,394)		(1,412)		(1,330)		(1,324)		(1,244)		(1,175)		▲ 269	▲ 237		
対前年増減				▲ 11		▲ 39		+ 18		▲ 82		▲ 6		▲ 80		▲ 69					
学校名		令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員		令和9年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11年度 (2029年度)		令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し					摘要			
		普通	職業	計																	
苫小牧東		6		6	0								○4年間で公私比率助案後4～5学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、苫小牧市内及び周辺市町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○地域連携校について、5月1日現在の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要					厚真の協力校			
苫小牧西		4		4	0		普▲1														
単 苫小牧南		4		4	3																
苫小牧工業			工 6	6	17																
苫小牧総合経済			商 3	3	22																
白 老 東		2→1		1	14	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕														R 8 (2026)入選第2次募集後学級減	
地 厚 真		1		1	23																
追 分		1		1	7																
中高 鶴 川		2		2	31																
9校		20 →19	9	28	117			普▲1													

日高学区高校配置計画案																			
区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		478		444		458		397		431		391		365		331		▲ 147	▲ 66
対前年増減				▲ 34		＋ 14		▲ 61		＋ 34		▲ 40		▲ 26		▲ 34			
浦河町中卒者数		(95)		(63)		(75)		(64)		(76)		(61)		(54)		(60)		▲ 35	▲ 4
対前年増減				▲ 32		＋ 12		▲ 11		＋ 12		▲ 15		▲ 7		＋ 6			
学校名	令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し								摘要			
	普通	職業	計																
単 静 内	5→4		4	16	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕			○ 4 年間で 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減 ○ 中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の 高校配置の在り方について検討が必要								平取の協力校 R 8 (2025)入選第 2 次募 集後学級減			
静内農業		農 2	2	8															
富 川	1		1	16															
地 平 取	1		1	9															
総 浦 河	3		3	36															
中高 *え り も	2		2	42															
6校	12 →11	2	13	127															

渡島学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		2,695		2,666		2,496		2,475		2,345		2,350		2,091		2,053		▲ 642	▲ 422
対前年増減				▲ 29		▲ 170		▲ 21		▲ 130		+ 5		▲ 259		▲ 38			
函館市中卒者数		(1,768)		(1,751)		(1,596)		(1,641)		(1,548)		(1,556)		(1,367)		(1,380)		▲ 388	▲ 261
対前年増減				▲ 17		▲ 155		+ 45		▲ 93		+ 8		▲ 189		+ 13			
北斗市中卒者数		(369)		(360)		(368)		(311)		(328)		(309)		(313)		(258)		▲ 111	▲ 53
対前年増減				▲ 9		+ 8		▲ 57		+ 17		▲ 19		+ 4		▲ 55			
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
函館中部		5		5	-2				○4年間で公私比率助産後6～7学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、函館市内及び周辺市町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要 ○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、再編整備の検討が必要 ○地域連携校について、5月1日現在の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要								南茅部の協力校		
単 函 館 西		6		6	0		普▲1										松前の協力校		
単 *市立函館		5		5	-1														
函館水産			水 3	3	45														
函館商業			商 4	4	1												福島商業の協力校		
函館工業			工 5	5	2												森の協力校		
地 南 茅 部		1		1	33	普▲1													
上 磯		1		1	26														
七 飯		3→2		2	11	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕											R 8 (2026)入選第2次募集後学級減		
大野農業			農 3	3	63														
地 松 前		1		1	15														
*知 内		2		2	9														
地 福島商業			商 1	1	24														
八 雲		2	商 1	3	55												長万部の協力校		
総 地 森		1		1	11														
地 長 万 部		1		1	15														
16校		28 →27	17	44	307	普▲1	普▲1												

檜山学区高校配置計画案																			
区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		212		202		174		179		147		137		141		137		▲ 75	▲ 42
対前年増減				▲ 10		▲ 28		＋ 5		▲ 32		▲ 10		＋ 4		▲ 4			
江差町中卒者数		(41)		(35)		(33)		(42)		(25)		(19)		(41)		(25)		▲ 16	▲ 17
対前年増減				▲ 6		▲ 2		＋ 9		▲ 17		▲ 6		＋ 22		▲ 16			
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
単 江 差	2→1		1	6	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕			○ 4 年間で 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減 ○ 中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体 の高校配置の在り方について検討が必要									上ノ国の協力校 R 8 (2026)入選第 2 次募 集後学級減		
地 上 ノ 国	1		1	15															
総 檜 山 北	2		2	26															
中高 * 奥 尻	1		1	30															
4校	6→5	0	5	77															

上川南学区高校配置計画案

区 分	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	R 15 (2033)	令和9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数	3, 202	3, 187	3, 111	3, 093	2, 955	2, 914	2, 757	2, 755	▲ 447	▲ 338
対前年増減		▲ 15	▲ 76	▲ 18	▲ 138	▲ 41	▲ 157	▲ 2		
旭川市中卒者数	(2, 448)	(2, 456)	(2, 390)	(2, 393)	(2, 293)	(2, 262)	(2, 151)	(2, 094)	▲ 354	▲ 299
対前年増減		+ 8	▲ 66	+ 3	▲ 100	▲ 31	▲ 111	▲ 57		
富良野市中卒者数	(172)	(157)	(165)	(149)	(122)	(120)	(107)	(125)	▲ 47	▲ 24
対前年増減		▲ 15	+ 8	▲ 16	▲ 27	▲ 2	▲ 13	+ 18		
学校名	令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
旭 川 東	6		6	0				○4年間で公私比率動案後5～6学級に相当する中卒者の減	上川の協力校	
単 旭 川 西	5		5	0				○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、旭川市内及び周辺町における再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要		
単 旭 川 北	5		5	0				○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、再編整備の検討が必要		
総 旭 川 南	5		5	11				○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を動案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要		
単 旭川永嶺	5		5	0						
旭川商業		商 5	5	38						
旭川工業		工 6	6	46		工▲1				
旭川農業		農 4	4	20						
鷹 栖	1		1	23						
東 川	2		2	10						
美 瑛	1		1	25		普▲1				
中 高 地 上 川	1		1	23					再編整備留保	
単 富 良 野	3	工 1 農 1	5	54						
上富良野	1		1	17						
*南富良野	1		1	19						
15校	36	17	53	286		普▲1 工▲1				

上川北学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		399		392		374		345		322		338		296		314		▲ 85	▲ 31
対前年増減				▲ 7		▲ 18		▲ 29		▲ 23		＋ 16		▲ 42		＋ 18			
士別市中卒者数		(110)		(124)		(79)		(101)		(84)		(89)		(81)		(74)		▲ 36	▲ 27
対前年増減				＋ 14		▲ 45		＋ 22		▲ 17		＋ 5		▲ 8		▲ 7			
名寄市中卒者数		(178)		(184)		(184)		(168)		(171)		(160)		(136)		(164)		▲ 14	▲ 4
対前年増減				＋ 6		± 0		▲ 16		＋ 3		▲ 11		▲ 24		＋ 28			
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
士別翔雲		3→2	商 1	3	35	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕				○ 4 年間で 0 ～ 1 学級に相当する中卒者の減 ○ 地域連携校について、5 月 1 日現在の在籍 者数が 2 年連続して 2 0 人未満となった場 合は、所在市町村をはじめとした地域と連 携して、高校の特色化・魅力化、入学者確 保に取り組む集中取組期間を設けて再編整 備の留保の検討が必要								下川商業の協力校 R 8 (2026)入選第 2 次募 集後学級減	
地 下川商業			商 1	1	28														
単 名 寄		4→3	工 1	4	28	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕													
地 美 深		1		1	13														
総 *剣 淵		1		1	30														
*おといねっふ 美術工芸		1		1	3														
6校		10 →8	3	11	137														

留萌学区高校配置計画案																					
区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減		令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減	
学区内中卒者数		283		266		261		238		227		191		202		186		▲ 97		▲ 52	
対前年増減				▲ 17		▲ 5		▲ 23		▲ 11		▲ 36		+ 11		▲ 16					
留萌市中卒者数		(116)		(133)		(97)		(96)		(112)		(80)		(96)		(91)		▲ 25		▲ 5	
対前年増減				+ 17		▲ 36		▲ 1		+ 16		▲ 32		+ 16		▲ 5					
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し					摘要							
		普通	職業	計																	
単 留 萌	4→3	工 1 商 1	5	74	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕							○ 4 年間で 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減 ○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校につい て、定員を含む学科構成の在り方の検討 が必要 ○ 2 年連続で 2 0 人未満となったため、集中 取組期間（地域における高校の教育機能の 維持向上に向けた具体的取組とその効果を 勘案した一定の期間）を設けて再編整備を 留保されている地域連携校については、取 組内容やその効果などに大きな変動がある 場合、必要に応じて集中取組期間の見直し を検討することとしており、一層魅力ある 高校づくりを推進し入学者を確保すること が必要					苫前商業、天塩の協力校 R 8 (2026) 入選第 2 次募集 後学級減				
羽 幌	2		2	15																	
地 苫前商業		商 1	1	16																	
地 天 塩	1		1	22													再編整備留保				
遠別農業		農 1	1	20																	
5校	7→6	4	10	147																	

宗谷学区高校配置計画案																			
区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		407		395		396		384		364		335		319		296		▲ 111	▲ 88
対前年増減				▲ 12		+ 1		▲ 12		▲ 20		▲ 29		▲ 16		▲ 23			
稚内市中卒者数		(230)		(209)		(218)		(217)		(211)		(175)		(176)		(159)		▲ 71	▲ 58
対前年増減				▲ 21		+ 9		▲ 1		▲ 6		▲ 36		+ 1		▲ 17			
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11年度 (2029年度)		令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し					摘要		
		普通	職業	計															
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	56								○ 4年間で公私比率助産後 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減					豊富な協力校 普通科、商業科単位制		
地 豊 富	1		1	29								○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要							
浜 頓 別	1		1	22								○ 地域連携校について、5 月 1 日現在の在籍者数が 2 年連続して 2 0 人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要							
校 幸	1		1	23								○ 第 1 学年 1 学級の高校のうち、地理的狀況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要							
利 尻	1		1	28															
礼 文	1		1	26															
6校	8	2	10	184															

オホーツク中学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		1, 177		1, 065		1, 120		1, 039		929		956		926		863		▲ 314	▲ 176
対前年増減				▲ 112		＋ 55		▲ 81		▲ 110		＋ 27		▲ 30		▲ 63			
北見市中卒者数		(904)		(813)		(846)		(809)		(730)		(769)		(713)		(694)		▲ 210	▲ 115
対前年増減				▲ 91		＋ 33		▲ 37		▲ 79		＋ 39		▲ 56		▲ 19			
学校名	令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し								摘要			
	普通	職業	計																
北見北斗	6		6	14				○4年間で公私比率助産後3～4学級に相当する中卒者の減								常呂の協力校			
単 北見柏陽	5		5	0												○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内及び周辺町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要			
単 北見緑陵	3		3	-1				○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要											
北見工業		工 3	3	47												○地域連携校について、5月1日現在の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要			
北見商業		商 3	3	46	商▲1			○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助産した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要											
置 戸		福 1	1	13												再編整備留保			
地 佐 呂 間	1		1	22															
地 常 呂	1		1	29												津別の協力校 R 8 (2026)入選第2次募集後学級減			
訓 子 府	1		1	11															
地 津 別	1		1	17															
美 幌	2→1	農 1	2	44	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕														
11校	20 →19	8	27	242	商▲1														

オホーツク東学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		466		476		433		431		378		381		351		334		▲ 132	▲ 97
対前年増減				+ 10		▲ 43		▲ 2		▲ 53		+ 3		▲ 30		▲ 17			
網走市中卒者数		(257)		(250)		(232)		(233)		(170)		(211)		(182)		(184)		▲ 73	▲ 49
対前年増減				▲ 7		▲ 18		+ 1		▲ 63		+ 41		▲ 29		+ 2			
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11年度 (2029年度)		令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し						摘要	
		普通	職業	計															
単 網走南ヶ丘		4		4	0							○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置 状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い 網走市を中心に、高校配置の在り方の検討 が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、 定員を含む学科構成の在り方の検討 が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況 から再編が困難であり、かつ地元からの進 学率が高い高校については、地域連携校に 位置付け、遠隔授業の配信による教育課程 の充実や、地域と連携した高校の魅力化等 により、可能な限り存続を図ることが必要						清里の協力校	
網走桂陽		2	商 2	4	67														
総 斜 里		1		1	32														
地 清 里		1		1	12														
総 *大 空		1		1	0														
5校		9	2	11	111														

オホーツク西学区高校配置計画案

区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和9～15 (2027～ 2033)年まで の増減	令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減
学区内中卒者数		415		410		355		376		364		313		291		327		▲ 88	▲ 49
対前年増減				▲ 5		▲ 55		+ 21		▲ 12		▲ 51		▲ 22		+ 36			
紋別市中卒者数		(138)		(143)		(106)		(129)		(123)		(95)		(93)		(100)		▲ 38	▲ 29
対前年増減				+ 5		▲ 37		+ 23		▲ 6		▲ 28		▲ 2		+ 7			
学校名		令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度(2030～2033年度) までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
単 遠 軽	5→4			4	1	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕			○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、定時制課程の配置状況を考慮しながら、再編整備の検討が必要（遠軽）								R 8 (2026)入選第2次募集後学級減		
紋 別	3→2	商 1	工 1	4	59	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕											興部、雄武の協力校 R 8 (2026)入選第2次募集後学級減		
地 興 部	1			1	-1														
地 雄 武	1			1	21														
※ 湧 別	2			2	30														
																	再編整備留保		
5校	12 →10	2		12	110														

十勝学区高校配置計画案																					
区 分		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減		令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減	
学区内中卒者数		2,704		2,743		2,630		2,528		2,422		2,360		2,292		2,221		▲ 483		▲ 307	
対前年増減				+ 39		▲ 113		▲ 102		▲ 106		▲ 62		▲ 68		▲ 71					
帯広市中卒者数		(1,278)		(1,330)		(1,299)		(1,205)		(1,221)		(1,162)		(1,175)		(1,143)		▲ 135		▲ 62	
対前年増減				+ 52		▲ 31		▲ 94		+ 16		▲ 59		+ 13		▲ 32					
学校名		令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員		令和9年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11年度 (2029年度)		令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し					摘要			
		普通	職業	計																	
帯広柏葉		6		6	-1								○4年間で公私比率助産後5～6学級に相当する中卒者の減					本別の協力校			
単	帯広三条	6		6	0								○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、帯広市内及び周辺町における再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要					池田の協力校			
帯広緑陽		4		4	0		普▲1														
帯広工業			工	4	4	3							○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要								
帯広農業			農	5	5	17							○地域連携校以外の第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して20人未満となった場合は、再編整備の検討が必要								
*帯広南商業			商	5	5	0							○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要								
単	音 更	3→2		2	30	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕											R 8 (2026)入選第2次募集後学級減				
芽 室		4		4	13			普▲1													
幕別清陵		3		3	35																
上 士 幌		2		2	23																
*士 幌			農	2	2	43															
総 清 水		3→2		2	22	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕											R 8 (2026)入選第2次募集後学級減				
中高	鹿 追	2		2	35																
更別農業			農	2	2	47															
普新	大 樹	1		1	22												地域探究科(普通科新学科)				
中高	広 尾	1		1	13																
総地	池 田	1		1	7																
地	本 別	1		1	9																
足 寄		2		2	35																
19校		39 →37	18	55	353			普▲2													

釧路学区高校配置計画案																									
区 分		R 8 (2026)			R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減		令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減				
学区内中卒者数		1, 612			1, 533		1, 400		1, 391		1, 348		1, 297		1, 227		1, 114		▲ 498		▲ 277				
対前年増減					▲ 79		▲ 133		▲ 9		▲ 43		▲ 51		▲ 70		▲ 113								
釧路市中卒者数		(1, 209)			(1, 154)		(1, 052)		(1, 030)		(995)		(962)		(918)		(782)		▲ 427		▲ 248				
対前年増減					▲ 55		▲ 102		▲ 22		▲ 35		▲ 33		▲ 44		▲ 136								
学校名		令和8年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員		令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11年度 (2029年度)		令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し					摘要							
		普通	職業	計																					
普新	釧路湖陵	5		5	0								○4年間で公私比率助案後6～7学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、釧路市内及び周辺町村における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要					阿寒の協力校 文理探究科(普通科新学科)							
単	釧路江南	5		5	-1		普▲1											弟子屈の協力校							
	釧路工業		工 5	5	63																				
	釧路商業		商 3	3	-2				商▲3																
総	釧路明輝	4		4	0				総▲4																
新設校							総+5											釧路明輝高校校舎を使用							
単	* 釧路北陽	5		5	5																				
	釧路東	2		2	20																				
地	阿寒	1		1	17																				
	白糠	1		1	10																				
総	標茶	2		2	38																				
地	弟子屈	1		1	20																				
	厚岸翔洋	1	水 1	2	55																				
	*霧多布	2		2	44																				
13校		29	9	38	269		普▲1		商▲3 総▲4 総+5																

根室学区高校配置計画案																						
区 分		R 8 (2026)			R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		R 15 (2033)		令和 9～15 (2027～ 2033)年まで の増減		令和12～15 (2030～ 2033)年まで の増減	
学区内中卒者数		536			587		538		523		456		502		443		408		▲ 128		▲ 115	
対前年増減					＋ 51		▲ 49		▲ 15		▲ 67		＋ 46		▲ 59		▲ 35					
根室市中卒者数		(138)			(152)		(133)		(154)		(132)		(147)		(128)		(101)		▲ 37		▲ 53	
対前年増減					＋ 14		▲ 19		＋ 21		▲ 22		＋ 15		▲ 19		▲ 27					
学校名		令和 8 年度 (2026年度)の状況 学科及び募集学級数			R 8 (2026) 欠員	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12～15年度 (2030～2033年度) までの見通し								摘要					
		普通	職業	計																		
単 根 室	3	商	2	5	92				○ 4 年間で 2 ～ 3 学級に相当する中卒者の減								R 8 (2026)入選第 2 次募集後学級減					
別 海	3→2	農	1	3	50	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕			○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方の検討が必要													
中 標 津	4→3	商	1	4	25	〔 募集学級数は 計画決定時に公表 〕			○ 2 年連続で 2 0 人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要													
地 標 津	1			1	7												再編整備留保					
*中標津農業		農	2	2	58																	
中高地	1			1	28																	
6校	12 →10	6	16	260																		